

2012年2月号 平成24年2月1日発行

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター

Aichi Gakuin University Dental and Pharmaceutical Library and Information Center

〒464-8650 名古屋市千種区楠元町1-100 TEL052-751-2561 (内線1621~1623) <http://www.slib.aichi-gakuin.ac.jp/>

2月といえば～

2月といえば、雪や梅の開花ですね。

まず、万葉集より紹介します。

万葉集は紀元759年以降に成立したと言われ、全部で4,516首も収録された、日本最古の、そして最大の和歌集です。

万葉集の成立は、以下のようでした。

大伴家持が藤原種継暗殺事件の首謀者として疑われ、彼の死後に行われた家宅捜索の折、家の中にあった大量の歌を没収されました。それらをもとに後日万葉集が編纂されたと言われています。

万葉集を読んでいくと、時空を越えて、その頃に生きた人と同じ感情を共感できるので、不思議です。

酒杯(さかづき)に 梅の花浮け思ふどち 飲みての後は 散りぬともよし

(杯に梅の花を浮かべて親しい仲間と飲んだら良い気持ちになった。もう散ってしまっても良いよ、梅の花よ

「万葉集」巻⑧・1656)

これは、大伴坂上郎女という大伴家持の叔母が作った歌です。親しい友と梅の花の元で酒を酌み交わし、良い気分になるという。見たまま思ったままをそのまま素直に表現した美しい歌です。

梅の花 降り覆ふ雪を 裏(包)み持ち 君に見せむと 取れば消(け)につつ

万葉集 10-1833(作者不詳)

恋というものを知り始めた若い二人の話でしょうか。

雪が降って、梅の木にも雪が積もっていました。ちょうど両手に収まるような雪の塊があったので、壊れないように両手でそっと取ってみました。さっそく見せようと思って、あなたのところまで小走りに走ったのですが、手を開いてみると、大半は溶けてしまっていました。あなたというので、ただでさえ熱くなっていた私の手は雪を溶かしてしまったのです。

NHKで「日めくり万葉集」という番組を放送しており、これは女優の真野響子さんが選んだ歌でもありました。

最後に、これは万葉集ではないのですが、国試の受験生のために、京都北野天満宮に合格祈願をお願いしてきました(左上写真参照)。有名な菅原道真の歌ですが、意味を調べると恐ろしいですね。

東風吹かば にほひをこせよ 梅の花 主なしとて 春を忘るな(拾遺和歌集)

(文責 事務長)